

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100589		
法人名	NPO(特定非営利活動)法人 まごころサービス松江センター		
事業所名	グループホーム まごころの家・いんべ ゆり		
所在地	島根県松江市東忌部町900-2		
自己評価作成日	令和元年11月1日	評価結果市町村受理日	令和2年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和元年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所4年目になります。毎朝、女性の方は化粧をし、男性は髭剃りをして頂いて1日が始まります。毎日のお茶の時間は、挽きたてのコーヒーを皆さんで飲んで頂いております。ご自分で出来る所はして頂きながら生活されています。お昼には、お櫃から食べたい量を茶碗によそい、汁やおかずもご自分でよそって頂いております。また、時には利用者様と一緒にクッキングを行っております。キッチンへは出入りが自由なので、冷蔵庫の中を見て頂き、あるものでその日の献立が決まる日もあります。今年度も、公民館から各自治会での健康教室の中で「認知症について」の講師依頼が5件入っています。地域の皆様から声を掛けて頂き、毎月1回の公民館喫茶へも利用者様と一緒に出席しております。今年度は、公民館活動の中で「歌謡教室」から毎月1回ホームにて歌声を披露して頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム まごころの家・いんべ ぼたん に記載しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールや事務所にはいつでも立ち止まって見れるように掲示してある。さらにスタッフには渡してあり、手帳やロッカーに貼り、常に意識、振り返りが出来るようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館に協力して貰い、自治会に加入し毎月の定例会や地域のイベント(高原祭り・文化祭・防災訓練等)にも誘いを頂き参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館より各地区の健康教室の一環で「認知症について」の講師依頼を今年度は5件受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、公民館、社協、行政。包括など社会的地の出席者が多い。家族も参加され、ホーム職員だけではなく公正にホーム内の報告を伝えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症の理解を深める為に、公民館から講師依頼があり、行っている。事業所の代わりに地域への取り組みも含め伝えているのと同時に、運営推進会議でも十分に理解は得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は夜8時過ぎてから行う。ベットの柵は必要だと家族の判断で文章を交わし、ベットの柵を使用する事もある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に職員会議やスタッフミーティングで周知する様にしている。職員会議での自施設研修では、必ずテーマとして挙げて、スタッフで再確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を中心に話し合っている。成年後見制度を今現在1名利用されている中で、職員会議の自施設研修では年に1回はテーマに挙げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	認知症との判断を外見だけで判断され入所された方が過去に1名居られたが、ホームではケアの継続が困難になり、かかりつけ医と家族に相談して入院となり、その後小規模に紹介入所になった例もある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所が多く、都度家族と話す機会がある。毎月1回、ホーム通信で生活内容をお伝えしている。来所時にも状態報告をお伝えしながら、家族様からもご意見を聞き遠慮なくお話をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や賞与の時期、その他に日々細やかに管理者や主任がスタッフに声を掛け意見を聞く様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同上に述べたように、話を聴く機会を多く設ける事により、スタッフの向上心に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	振り返りシートの活用を管理者を中心とした細かな声掛けや疑問に思った事や、ケアでの悩みはスタッフミーティングや個別に話しをすることで、解決に繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の交流は強くある。外部からの見学や研修も受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症という事で、本人の思いが中々伝えられないのが現状。今までの生活歴等を家族から聞くことや、本人の何気ない一言から発見に繋げる事もある。心地良い生活になる為に、スタッフ全員で認知症の勉強をし、情報の共有に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所された折りに、家族から色々な話を伺う努力をしている。また、家族を労う等を行いながら、何でも気軽に話して貰える関係を作る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者とケアマネで対応している。入所目的で相談に来られる方も居られるが、入所と言う方法は早すぎたり、認知症ではないと思える方には、病院への相談、又は包括支援に相談された方が良いとお伝えしたこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が自信を持って役割を發揮できる場面を作るように努めている。また、スタッフは利用者の尊厳を大切にしつつ親しみが感じられる様に、方言を交えて自然体で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族へご本人の様子を密に報告し、信頼関係を築く様に努めている。また、受診の際に同行して頂いたり、定期的に来所して、ご本人と過ごして貰うようにしている家族もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活歴を把握し、ご本人の思いを聞きながら、ご家族とも相談している。また、友人から電話もかかる事もある。こちらから友人に電話をかける事もしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者やその時の状態を把握し、一緒に作業やアクティビティに参加して頂ける様に工夫し、常にお一人お一人を観察し、その時に合った支援が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	挨拶の手紙や、毎月の通信を発送する事で気軽に来訪して頂ける関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情から、本人の思いや希望を汲み取る様に努めている。また、家族からの要望も聞き入れ、スタッフ間で情報の共有が出来ている。ホーム来訪の困難なご家族様には、利用者様をお連れしたり、ご家族様の送迎を行い、一緒に過せる時間を作る様に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を把握する様に努めている。ご本人や、ご家族との日頃の会話の中で生活歴や馴染みの暮らし方等を把握し、ホームでの暮らしがその方にとって安心できるものとなる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日を穏やかに過ごして頂ける様に、常に寄り添い心身の安定に努めている。毎月の職員会議では、状態の変化を把握し、急な状態変化があった時は朝礼時、又はスタッフミーティングを行い職員間での情報を共有する様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、ご家族と連携を密に行い其々の意見やアイデアを介護計画に活かす様に作成している。また、職員会議にて、ケアの振り返りや課題を話し合い、現状に即したケアがスピーディーに提供出来るように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子、食事、水分摂取量、排泄、服薬等の記録、日々の暮らしの経過記録、家族様にも見て貰える様に個別ノートや、毎朝のバイタルチェックを行う事で、健康状態の把握に努めている。変化があれば、都度話し合い対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診に際し、ご家族が付き添えない場合は、スタッフで対応している。入院時には全スタッフが面会に行き、慣れたスタッフが介助に入る等、環境を和らげながら治療し、早期退院出来るように支援している。家に帰りたいと希望される利用者様には、ご家族のご了承を得てお連れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的開催される公民館喫茶にモーニングを食べに利用者様と一緒にいる。認知症についての講演を、公民館からの依頼で年に数回各自治会でお話をさせて頂いている。誕生会や行事の際には地域のボランティアの皆様に来て頂き歌や踊りを披露して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回の往診は釜瀬クリニックとつきはしクリニック。2名の利用者様は受診介助にて対応している。他に、内海皮膚科、吉川歯科、野田眼科など必要に応じて往診してもらいながら医療との連携を取っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日の訪問看護ステーションの訪問にて1週間の様子を伝え、指示を貰っている。必要ならば、主治医、日赤、市立病院などの総合病院の受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、職員が都度面会に行きDrや看護師と話をしながらまた、家族の方と相談し、1ヶ月以内の退院を目指している。退院時には家族、Dr、ソーシャルワーカーと連携を取り、ホームでの対応について話をしていく。入院が1ヶ月以上になる様なら家族、病院と連携し次の施設を探すなどの情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えられた時に、ホームでの看取りを希望されるのであれば、主治医、訪問看護師と連携を取り、家族にも看取りについて理解してもらいながら、ホームでの最期を迎えられる様に努めている。職員間でも情報の共有しながら看取りに向けて取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはその場にいる職員が判断できるように指導してきている。主治医、訪問看護師、家族、管理者に様子を伝え、救急搬送が必要な場合は救急車を呼び、職員の応援を頼み対応できるようにしている。定期的にAEDの研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハザードマップを公民館より提供して貰っている。年2回の消防訓練、災害時の対応について職員に研修を通じて理解して貰っている。また、自治会での防災訓練にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し、丁寧かつその方の理解に合わせた声掛けや対応を心掛けている。居室の出入り口には暖簾を取り付けてプライバシーの確保に留意している。人生の先輩として利用者の人格を尊重し、敬意を持ち、言葉使いにや対応に気を付けている。尊厳についての自施設研修や気付きは、ミーティング等で話し合い共有している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや、希望を引き出せるような声掛けや関わりを暮らしの様々な場面で行うようにし、表出された意向を優先させるように心掛けている。思いを伝えられる利用者に対しては、じっくり傾聴し本人の希望に添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念の「今日が一番いい日」を掲げている。基本的な流れは構築されている。ご利用者の心身の状況に合わせて臨機応変に、食事の時間や休息又は活動の時間を調整する様に心掛けている。一人一人の生活歴、趣味嗜好の把握に努め希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師に来て頂いたり、散髪店に出向いたり、美容師免許を持つ職員がその方らしいヘアスタイルにしている。日常的には、離床時にご本人が気付いておられない部分をさりげなく整えさせて貰える様に心掛けている。また、毎朝お化粧をさせて貰い生き生きとした表情で過ごして頂く様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れた食事を三食共に職員の手作りで提供し、利用者に盛り付けをして頂きながら食事の準備をしている。食事は職員も同じメニューで利用者と一緒に食卓に着き楽しく会話をしながら支援している。バイキング形式の食事やご自分でお櫃からご飯をよそったり、おかずを好きなだけ取って頂いたりして、家庭的な雰囲気支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の心身の状況に応じて、食事形態や内容、介助方法の工夫、提供する時間の調整を臨機応変に行い1日を通じて必要な量を確保出来るように支援している。嗜好に合わせた飲み物を提供し、ご自分たちで楽しく会話しながらお茶を注いで頂いている。1人1人1日の水分量が把握できるように記録・情報共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアをして頂ける様に声掛けを促している。ご利用者の力に応じてうがい、ブラッシング、拭き取り等方法を選択し、口腔ケアを行っている。アクティビティ時、口腔ケア体操や歌を取り入れている。必要時には訪問歯科の協力もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し1人1人の排泄パターンやトイレへ行きたいサインの把握を務め、その方の様子や時間にトイレ誘導を行っている。全介助の方も定期的にパット交換や洗浄を行い清潔保持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人1人の排泄状況を把握する様にし、適時、下剤の服用や座薬の使用でその方に合った排便コントロールを行っている。朝食時に牛乳や豆乳などをお茶と一緒に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上を目安にご本人の希望に沿い同性介助や、お話を伺い楽しめるよう工夫している。バイタルチェックを行い体調を見極め入浴して頂いている。足ふきマットの下に滑り止めを敷くなど安全面にも気を付けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の心身の状況に合わせて適時、休息と活動のバランスが取れるように心掛けた支援を行っている。夜間眠れない方に対しては、お茶を飲んで頂きお話を伺っている。夜間入眠が少なかった時など、情報共有し食後に午睡して頂いたり休息を取って頂いている。寒がりの方には湯たんぽなどを利用し、安眠に繋がるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬剤情報をファイルし職員がいつでも見られるようにしている。ご利用の状態を常に観察して、服薬方法など状況の変化を見逃さず職員で情報共有している。薬が服用が出来た事を最後まで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一般的な家事を活動を中心に、個別の生活歴に合わせた支援をしている。また、アクティビティでは体操や歌を取り入れている。歌はご利用者の好みの歌や、塗り絵、刺繍や工作をして頂きホームに飾る事で楽しんで頂ける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブへ行くなど速やかに対応している。その日の状況に応じてあり、家へ帰りたいご本人の希望また、家族の所へお連れし帰りたい希望に出来る限り添える様にしている。たとえ看取りを覚悟されている方に対しても希望を叶えるようにしている。地域の公民館活動やお祭りにも参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金をお預かりし、事業所で管理している。外出時には欲しい物を購入してもらうように支援している。ホームに出入りのある業者からお花を選んで買われることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、何時でも対応可能な状況。ご家族や友人から電話がかかってきた時には、ご本人に出て頂き話をして頂いている。こちらから家族や友人に向けて電話をして頂ける様に促しもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事の飾りつけや言葉、ご利用者の作品を飾り安らぎと楽しみのある雰囲気作りをしている。オープンな台所で、何時でも何方でも入って来られる様にしており、調理や盛り付け、食器洗いを手伝って頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々でテーブルを動かしたり、小ホールでお一人の空間を作ったり、ご利用者と職員の間で会話を楽しんで頂ける空間作りに努めている。居室で仲の良い方同士で話されている時はお茶の準備をし、ゆっくり話して頂ける様に支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットやチェスト以外はご自分の衣装ケースやテレビや馴染みの生活用品を置いたり、写真やご本人の作品を飾ったりしている。寝具等、使い慣れたものを持参し心地良い睡眠に繋げている。居室にご本人がされたフラワーアレンジメントを飾り季節感を味わわれている。季節に応じた飾り付けをし、温かい雰囲気の部屋作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所には手すりを付けて安全な歩行が出来るように工夫している。トイレや居室には、プレートを付けて分かりやすいようにしている。		